

平成二十九年 入学試験問題

国語

第二回

【注 意】

- ・ 試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・ 問題は一ページから六ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- ・ 字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

30

25

20

15

10

5

60

55

50

45

40

35

問一

——(1)「人は一人では生きていけない」というこれまでの前提」とありますが、それはどのような前提ですか。解答らんに二行以内で具体的に説明しなさい。

問二

——(2)「こうした観点」とありますが、それはどのような観点ですか。解答らんに二行以内で説明しなさい。

問三

——(3)「かえって傷ついたり、人を追^おい詰^つめたりする」とありますが、それはなぜですか。解答らんに三行以内で説明しなさい。

問四

(4) に入れるのに最もふさわしい言葉を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 同質 イ 主体 ウ 公平 エ 利害

問五

次の一文を文章の中の☆の間(47行目～62行目)の適切な部分に戻し、直後の五字を答えなさい。(読点や記号も字数に数えること。)

そのことが、人間の幸せのひとつの大きな柱を作っているからです。

問六

A ㄱ D に入れるのにふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

- ア とりわけ イ だから
ウ ところが エ もちろん

問七

——(ア)オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 年齢が上であればあるほど、暮らしている場所が都会であればあるほど、人は一人では生きていけない可能性が高い。
イ 近代社会になり、貨幣が流通するなど様々な社会の変化により、昔ほど一人でも生きていくのに困らなくなった。
ウ 若い人よりも年配の人のほうが、「親しさを求める作法」において、「ムラ社会」の時代の伝統的な考え方を引きずっている。
エ 都市開発が進み近隣住民との交流が希薄になっていく現代だからこそ、昔ながらの人と人とのつながりのあり方に立ち返るべきである。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

25

20

15

10

5

60

55

50

45

40

35

30

90

85

80

75

70

65

120

115

110

105

100

95

問一 — (1)「私たち」とありますが、「私たち」の具体的な説明となつて
いる語句を十六字で抜き出しなさい。

問二 — (2)に入れるのにふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、
記号で答えなさい。

ア 「…嫌じゃないけど…やっぱり、早野さんと話すのは、なんか、き
つい」

イ 「…律がいうほど、私には、早野さんがいい人には見えないけど」

ウ 「…久美ちゃんもそう言ってたけど…話してみようかな」

エ 「…律がそう言うなら、少し、話してみるけど」

問三 — (3)「クラスのすみっこに溶け込んでいった。」とありますが、どう
いうことですか。解答らんに二行以内で説明しなさい。

問四 — (4)「内緒」とありますが、「内」を使った次の一～五の語句の意
味を、後の「意味」ア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

一 内弁慶 うちべんげい

二 内幕 うちまく

三 手の内 うち

四 松の内 まつのうち

五 身内 みうち

【意味】
ア 家の中ではいばつていますが、外に出るといくじがないこと。
イ 家族や親類。
ウ 一月一日から七日の間。
エ 心にかくしている考え。
オ 外からではわからない内部のようす。

問五 — (5)「麗ちゃんにそう言われることが意外で」とありますが、どう
して意外だったのですか。解答らんに二行以内で説明しなさい。

問六 — (6)に入れるのにふさわしい漢字一字を自分で考えて書きなさい。

問七 — (7)「ワークブックでとてもいい点数をとっていた」とありますが、
これはどういうことですか。解答らんに二行以内で説明しなさい。

問八 本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えな
さい。

ア 瀬里奈は、一学期のうちは、律と仲良くしていたが、瀬里奈の読
書をめぐる会話が原因で話をしなくなり、それを見かねた早野が
瀬里奈に話しかけるようになって、そのグループの一員のように
なった。

イ 瀬里奈は、学年の始まるころはクラスメイトからよく思われてい
なかつたが、久美たちと仲良くなり、二学期が終わるころには、
クラスの中心的存在である早野と親しくなり、久美たちとは距
離が生じ始めた。

ウ 律は、相手のことを思つて言葉を選び行動をする少女であり、瀬
里奈に対しても彼女の^{かたじけ}なためにアドバイスをしたのだが、かえつて
瀬里奈は麗たちに誤解され距離を置かれるようになった。

エ 律は、大人^{おとな}しい女の子たちと仲良しで、内気な性格である瀬里奈
とも親しかったが、瀬里奈の容姿にあこがれる早野はそういう交
友は瀬里奈に似合わないと思ひ、瀬里奈を自分たちのグループに
入れようとした。

